科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar Ⅰ						
科目担当者	出山 実　　IDEYAMA Minoru						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	会計学の強みは、「測ることによって改善できる」ことです。近年の会計学の役割は、従来の利益計算や企業実態の報告だけにとどまらず、気候変動問題や人権問題、ガバナンス問題などを、どのように測って伝えていくのかという「企業と社会の持続可能性」にまで広がりをみせています。そこで、本演習では、企業経営と会計学の基本的な学びを復習したうえで、持続可能性に関わる諸問題をテーマに設定し、学びを深めていきます。 本演習の進め方は、毎回、テーマを設定し、その内容についてグループ学習を行います。 各グループの報告を受けて、ゼミ生全員でディスカッションを行います。なお、新聞の経済記事に関する討議も合わせて行います。						
授業の到達目標	①経営学と会計学の基本的な理論を身に付ける。 ②持続可能性に関する諸問題について理解する。						

授業計画・内容	1	オリエンテーション：新・現代会計入門	16	オリエンテーション：社会のなかの会計
	2	報告と討議＜１＞現代の企業会計	17	報告と討議＜１＞歴史の中の簿記会計
	3	報告と討議＜２＞企業会計の本質	18	報告と討議＜２＞簿記とは何か
	4	報告と討議＜３＞企業のディスクロージャー	19	報告と討議＜３＞キャッシュフローの簿記会計
	5	報告と討議＜４＞損益計算書のパラダイム	20	報告と討議＜４＞損益計算とキャッシュフロー
	6	報告と討議＜５＞経営パフォーマンスの測定	21	報告と討議＜５＞複式簿記のサイエンス
	7	報告と討議＜６＞貸借対照表のパラダイム	22	報告と討議＜６＞企業会計の基本的な考え方
	8	報告と討議＜７＞資産の会計	23	報告と討議＜７＞会計ビックバン①
	9	報告と討議＜８＞持分の会計	24	報告と討議＜８＞会計ビックバン②
	10	報告と討議＜９＞金融商品の会計	25	報告と討議＜９＞変容の全体をどう見る
	11	報告と討議＜10＞従業員給付の会計	26	報告と討議＜10＞変容の形と方向
	12	報告と討議＜11＞連結グループの会計	27	報告と討議＜11＞新たな会計秩序を求めて
	13	報告と討議＜12＞企業結合の会計	28	報告と討議＜12＞トライアングル体制の変容
	14	報告と討議＜13＞グローバリゼーションの会計	29	報告と討議＜13＞経済のグローバル化と会計
	15	前期まとめ	30	後期まとめ

授業外学修 (事前学修)	報告者：担当箇所のテキスト（及び新聞記事等）を要約し、報告の準備をしてくる（3時間） 報告者以外：教科書（及び新聞記事等）の対象範囲を読んできて、討議の準備をしてくる（2時間）
授業外学修 (事後学修)	演習での討論を受けて、どのような話し合いがあったのか、自分はどのように考えるかについてまとめる（2時間）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	報告と討議	100%	①②

成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合
教科書	稲盛 和夫『稲盛和夫の実学 経営と会計』日本経済新聞社 伊藤 邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社 石川 純治 他『新訂・社会のなかの会計』放送大学
参考文献	
その他	＜どのような学生の受講が望ましいか＞ ・会計の分野に興味がある学生　・応用レベルの会計知識を身につけたい学生・将来、経理・財務担当者、銀行員、商業科の 教員になりたい学生 ＜あらかじめ受講して欲しい科目＞ 会計学、簿記論（or 上級簿記） ＜併行して受講して欲しい科目＞ 経営分析、財務諸表論、管理会計論、原価計算論